

令和3年12月20日  
 子ども・若者部  
 若者支援担当課

世田谷区立野毛青少年交流センター及び  
 世田谷区立希望丘青少年交流センター運営事業者候補者の選定について

1 主旨

世田谷区立野毛青少年交流センター及び世田谷区立希望丘青少年交流センターの運営業務を委託するにあたり、プロポーザル方式による公募を実施し、以下のとおり運営事業者の候補者を選定したので報告する。

2 運営事業者の候補者名等（野毛青少年交流センター・希望丘青少年交流センター共通）

- (1) 事業者名 公益財団法人 児童育成協会  
 (2) 所在地 千代田区四番町2番地12 四番町THビル  
 (3) 代表者 理事長 鈴木 一光

3 経過（野毛青少年交流センター・希望丘青少年交流センター共通）

令和3年 9月 1日 プロポーザル公告  
 9月14日 参加表明書提出期限（2事業者が提出）  
 9月21日～ 財務審査  
 10月13日 企画提案書提出期限（2事業者が提出）  
 10月14日～ 書類審査  
 11月16日 プレゼンテーションによる審査

4 選定の方法等（野毛青少年交流センター・希望丘青少年交流センター共通）

(1) 選定方法

選定委員会を設置し、選定基準に基づき、提案書の書類審査、プレゼンテーションによる審査及び公認会計士による財務審査を行い、総合的に評価した。

(2) 選定委員会の構成（五十音順）

氏名	役職・所属等
青木 政子	池之上青少年交流センター運営委員会委員長 元世田谷区立小学校長
齋藤 啓子	野毛青少年交流センター運営委員会委員長 武蔵野美術大学教授
須田 健志	子ども・若者部 児童課長
柳澤 純	子ども・若者部長
山本 久美子	子ども・若者部 若者支援担当課長
吉永 真理	希望丘青少年交流センター運営委員会委員長 昭和薬科大学教授

※ 委員長：青木 政子

## 5 審査・選定結果

## (1) 野毛青少年交流センター

## ①評価項目

- i 世田谷区及び国の若者支援施策、並びに本業務の理解度及び課題認識のレベル
- ii 事業実施内容の充実度及び履行の信頼度  
(運営管理全般、居場所づくり、プログラム等事業の実施、若者の参加・参画、協働、地域・大人とのつながり、広報)
- iii 事業実施体制 (財務審査を含む)
- iv プレゼンテーションによる評価

## ②審査・選定結果

事業者／評価項目	i	ii	iii	iv	合計
配点	120	300	180	60	660
児童育成協会	91	233	156	50	530 (80.3%)
次点	63	191	112	42	408 (61.8%)

## ③主な選定理由

選定された事業者は、施設が向き合うべき課題を明確に捉え、利用者促進のための環境整備・広報計画や若者の意見表明のための場づくりとして若者運営委員会を設置すること、就労支援の方針等、具体的な取り組みの提案があった。また、若者に向き合いながら、工夫を凝らしたプログラムが実施されることに期待が持てるほか、区内全域、全国、世界から子ども・若者が集い、交流できるHUB的機能をもった広域施設である認識を持ち、施設の特徴である宿泊機能も活かした事業展開をしていくという提案があった。以上のことから、当該事業者の提案を採択するとの評価に至った。

## (2) 希望丘青少年交流センター

## ①評価項目

- i 世田谷区及び国の若者支援施策、並びに本業務の理解度及び課題認識のレベル
- ii 事業実施内容の充実度及び履行の信頼度  
(運営管理全般、居場所づくり、プログラム等事業の実施、若者の参加・参画、協働、地域・大人とのつながり、広報)
- iii 事業実施体制 (財務審査を含む)
- iv プレゼンテーションによる評価

## ②審査・選定結果

事業者／評価項目	i	ii	iii	iv	合計
配点	120	300	180	60	660
児童育成協会	100	239	152	56	547 (82.8%)
次点	67	195	112	38	412 (62.4%)

## ③主な選定理由

選定された事業者は、居場所の重要性・若者の多様性を踏まえ、地域や児童館と連携して事業を展開していく等、区が求める青少年交流センターの役割を理解した提案であった。また、「出張アップス」などのアウトリーチに対する考え方や、若者の主体的活動の目的や具体的な取り組み方法が明確であり、工夫されたプログラムの効果が期待できるほか、複合施設の防災拠点としての認識を持った運営がなされる点や、各職員へのフォローや育成に取り組んでいくという提案があった。以上のことから、当該事業者の提案を採択するとの評価に至った。